

白方小学校だより

白方の風

【学校教育目標】自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和7年度
No.17
東海村立白方
小学校
2025.9.1
児童数 451人

保護者の皆様には、夏休み中の児童の安全な生活に心を砕いてくださり心より深く感謝申し上げます。おかげ様で大きな事故やけがなどのご連絡もなく、全児童とも2学期を迎えることができました。大変ありがとうございました。

2学期は授業日が本日を含めて76日間あります。1、2、3学期の中で最も授業日が多い学期になります。1～4年生の遠足、5年生の宿泊学習、6年生の陸上記録会など学校行事も多く計画されております。

学習面、生活面においては、2学期に「何をしたいか、何ができるようになりたいか。」という目標を立てその目標を達成するために「どうしたらいいのか。」を考えて、一人一人が目標に向かって、自分から考えて行動していきことができるよう働きかけ、「自分で考えて行動できる力」を、さらに高めて参りたいと存じます。本学期もどうぞご支援ご協力をお願いいたします。

始業式の話（要約）

「自分の命は自分で守って2学期を迎える」ということを全員が成し遂げられたこと、大変に素晴らしいことです。

2学期は学校行事や授業の時間が一番多い学期です。その2学期も1学期に引き続き、学習や生活で「何がしたいか。」そのしたいことを解決したり、できるようになるために「どうしたらいいのか。」を考えながら学習や生活をしてほしいと思います。そして、相手が嬉しい気持ちになる言葉や、さわやかなあいさつがあふれる学級、学年、学校になるようにして、一人一人みんなが「元気に過ごす」という目標を達成してほしいと思います。元気に過ごすには、病気や怪我を防ぐための手洗い、うがいをしっかり行う、廊下は歩く、落ち着いて行動するといった事を守ると共に、バランスのよい食事を取り、からだを清潔に保ちよく寝ることが大切です。加えて、交通安全、不審者を見かけた時の対応、災害や津波の際の適切な行動の仕方を守り、2学期も必ず自分の命を守りましょう。

最後に、白方小からも2名の6年生代表が参加させていだいた広島平和記念式典で、広島市の6年生が読んだ「平和への誓い」の一節を紹介します。（「平



和への誓い」一部を抜粋のして紹介)

今後も、平和な学級、学校、社会、そして、自分も、みんなも幸せに生きることができる社会を築くために、どうしたらいいか考え、考えたことを実行して行って欲しいと願っております。

広島平和記念式典より

（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

「平和への誓い」

「原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありませんか。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。

誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。

一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年が経つ今、

本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、

直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、

あの悲劇を風化させず、

記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする

こと。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず

です。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、

いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず

です。大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、

私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

令和7年（2025年）8月6日 こども代表

広島市立皆実小学校 6年 関口 千恵璃

広島市立祇園小学校 6年 佐々木 駿